

総合ユニコム
マーケティングレポート

キッズ・
プレイグラウンド

SAFARI

堅調・安定的な集客力を誇る キッズ・プレイグラウンド

将来的には供給過多による
訴求力低下の可能性も

文殊リサーチワークス | 三浦直子

1 | プレイグラウンドの 카테고리

(1) プレイグラウンドの種類

プレイグラウンドという言葉に厳密な定義はないが、広義では体を使って遊ぶ器具のある遊び場のこと全般を指す。屋内型と屋外型があり、主に子ども向けの施設を指すが、大人も含めた幅広い層をターゲットにした施設もプレイグラウンドと呼ぶことがある。国内においてはそれぞれが独自の発展を遂げている。国内でプレイグラウンドという言葉が使われているのは主に屋内施設である。子ども向けの施設で、ボールプールや大型エア遊具、ネット遊具など、体を使って遊べる大型遊具で構成される施設をプレイグラウンドと呼ぶことが多く、一般的にそれがプレイグラウンドと認識されている面もある。これらの施設は子育てファミリーが安心して利用できるように、授乳室などの子育て支援系設備や母親が一息つける設備が充実していることがあり、子育て関連施設としても位置づけられる。また、体を動かす気づきがあるのでエデュテインメント施設として捉えられることもある。国内において最も開発が活発化しているのはこのカテゴリーである。従来から商業施設内に設置されていた子ども向け屋内遊園地もボールプールなどが導入されており、プレイグラウンドに分類される。しかし、いまのように子育て支援や体を使って遊ぶ要素、エデュテインメントが特に意識されていたわけではない。

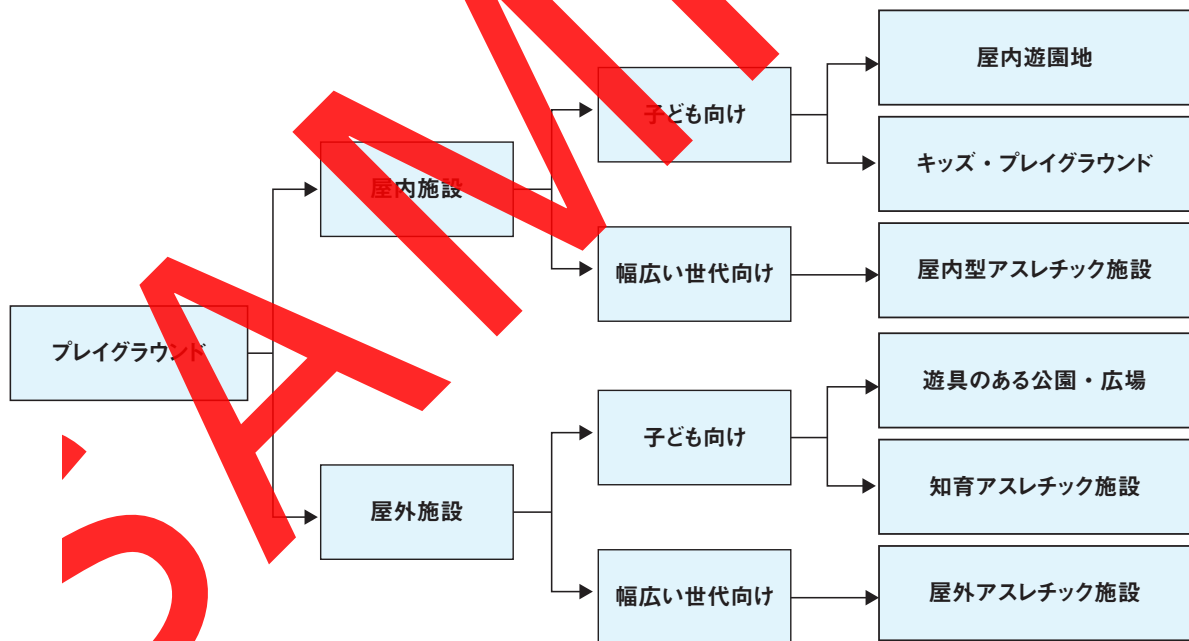
その一方、大人も含めて幅広い層をターゲットにした新しいタイプのアスレチック系施設もプレイグラウンドと呼ぶことがある。主にボルダリングやトランポリンなどから構成され、カラフルで楽しいデザインになっていたり、多様な難易度のプログラムがあったり、従来のアスレチック施設よりもエンターテインメント性が高くなっていることが特徴である。スポーツやフィットネスを目的とした施設ではなく、グループやファミリーで気軽に体を使って遊べるレ

ジャー施設となっている。これらの施設は現在のアーバンレジャーの流れをくんでいるといえる。

プレイグラウンドは遊具のある公園や広場の意味もある。屋外施設としては自然公園などに設置された丸太渡りなどの木製遊具、ネット遊具、ターザンロープなど自然を活かした遊具から構成される屋外アスレチック施設などもそうである。子ども向けのアスレチック施設としては、2000年代後半ごろに知育アスレチックがブームとなり、遊園地などのレジャー施設で導入が相次いだ。知育アスレチックとはさまざまな身体的気づきのある遊具から構成された子ども向けのアスレチック施設である。これらの施設はプレイグラウンドに分類されるものの、特にプレイグラウンドという名称では呼ばれていないものが多い。プレイグラウンドという言葉自体が2010年代ごろから国内で頻繁に使用されるようになったため、それ以前に開発された施設が多いことにも起因している。近年に開発された施設では、屋外に子ども向け遊具を設置した遊び場をプレイグラウンドと呼んでいるところもみられる。自然の豊かな場所での屋外型アスレチック施設は「フォレストアドベンチャー」などの自然共生型レジャー施設に進化している【図表1】。

ここでは未就学児などを含め比較的年齢が低い子どもが遊ぶ屋内型施設、いわゆるキッズ・プレイグラウンドを対象として以下に取り上げる。

【図表1】プレイグラウンドの 카테고리



資料：文殊リサーチワークス「次世代型新業態に関するレポート」

主なキッズ・プレイグラウンドの概要

①ASOBono! (アソボノ)

東京ドームシティ内にオープンした屋内型キッズ施設。環境デザイン・設計監修はポーネルドが行なっている。館内は「親子がいっしょに楽しめる・遊べる」をコンセプトに5つのエリアで構成されている。

「アドベンチャーオーシャン」はエリア全体を海に見立てており、都内最大級のボールプールに高さ10mの船が浮かび、クライミングやすべり台などからなるエリア。「トイフォレスト」はボードゲームや知育玩具、組み立て遊びなどのおもちゃが揃っており、組み立て遊びは協力して作品をつくることもできる。「プレジャーステーション」は約100㎡のエリアでプラレールやトミカなどを広く展開できたり、柔らかいブロックでジオラマをつくらったりすることが可能。「カラフルタウン」はヨーロ



ッパの街並みをイメージしたエリアで家の庭や店、市場などで自由に遊べる。「ハイハイガーデン」は0～24か月の赤ちゃん専用のエリア。

館内は親子で一緒に楽しめる仕掛けが多くあり、子どもを見守るだけではなく常にそばについていられることが特徴となっている。2021年8月に開業10周年を迎え、各エリアに追加アトラクション導入や安全性の向上などのリニューアルを行なった。

D A T A	●所在地	東京都文京区後楽1-3-61	●開業日	2011年8月19日	●運営主体	(株)東京ドーム	●営業時間	平日10時～18時、土日祝日9時30分～19時
	●利用料金	子ども(6か月～小学生)60分950円、以降30分毎に450円、大人(中学生以上)入館料950円、子ども1日フリーパス1,800円	●施設内容	アドベンチャーオーシャン、トイフォレスト、プレジャーステーション、カラフルタウン、ハイハイガーデン				

②東京こども区こどもの湯

番台を模したエントランスなど昔懐かしい下町の銭湯をイメージしたプレイグラウンド。東京スカイツリーの商業施設である「東京ソラマチ」内にオープンした。運営は㈱イオンファンタジー。

「史上最大級のボールプール」を標榜し、8万8,000個のボールを使用したボールプール温泉が施設の最大の特徴で、キービジュアルとなっている。そのほか、ボールプールに向かって滑り降りる「こどもの滝」、七色の光に変化するボールプール「虹の湯」、0～2歳までの子どもが遊べるボールプール「はいはいの湯」も設置している。

八百屋やたこ焼き屋、寿司屋になりきってごっこ遊び



ができる「ごっこ商店街」、「休憩処」はお座敷風のデザインになっており、コミック・雑誌やマッサージチェア(有料)が設置してあり、ゆっくりとくつろぐことが可能。ボールプールが見渡せるので親は休憩しながら子どもを見守ることもできる。また、「お祭り広場」では駄菓子売場があり、射的、手裏剣遊びができる。

D A T A	●所在地	東京都墨田区押上1-1-2 東京ソラマチ East Yard 5階	●開業日	2014年8月1日	●運営主体	㈱イオンファンタジー	
	●延床面積	約389.4㎡	●営業時間	10時～21時	●利用料金	小人(小学2年生以下)60分1,200円、延長30分600円、中人(小学3年生～15歳)60分600円、延長30分300円、大人(16歳以上)60分600円、延長30分300円	●施設内容

③チームラボ 学ぶ! 未来の遊園地 ららぽーと富士見

国内外を代表するデジタルアート集団「チームラボ」がプロデュースするデジタル技術を活用した体験型施設。デジタル・プレイグラウンドの先駆けとなった。各地でイベント開催していたが、「ららぽーと富士見」は常設1号となる。

館内には、開始当初メディアに注目された、描いた魚



の絵がスクリーンで泳ぐ「お絵かき水族館」や足元に映